

【留守家庭児童育成クラブにおける新型コロナウイルス感染症対策について】

(令和3年7~8月の聞き取り調査に基づく)

マスク	全てのクラブでマスク着用の指導を行っている。夏季に屋外で活動する場合は、熱中症のリスクもふまえ距離を取ってマスクを外すことを認めるなど、学校での指導内容に合わせた指導を行っている。何らかの事情でマスクの着用が困難な児童については、保護者や学校と連携し個別の対応を取っている。
手洗い	来所時やおやつの前、外遊びの後など、各クラブでこまめに手洗いを励行している。児童用手洗いが無い教室や蛇口が少ない教室には、手洗いの増設も行っている。
消毒	全てのクラブで机やドアノブ等の消毒を毎日実施している。開所前後など、複数回実施しているところが多い。
換気	ほとんどのクラブで、窓や換気扇により常時換気を行っている。近隣住民からの苦情があるなど、窓を開けられない事情があるクラブであっても、1時間に1回など、定期的に換気を行っている。扇風機やサーキュレーター、空気清浄機等も合わせて使用している。クラブによっては、国のコロナ対策補助金を活用して換気扇を増設したり、換気設備を導入したところもある。
昼食・おやつ	教育委員会では向かい合わずに一方向を向いて黙食することを推奨している。クラブによっては、スペースの都合上一方向を向くことが困難な場合もあるが、その場合は必ずパーテーションを使用している。各クラブにおいては、学年や班ごとに時間をずらしたり、昼食・おやつの時だけ学校から空き教室を借りて分散するなど工夫している。
行事	コロナ以前は全員で実施していたものを、コロナ以後は学年ごとや班ごとなど、少人数にして行ったクラブが多い。渡り廊下など、屋根のある屋外のスペースをうまく活用したり、学校から体育館などを借りて行事を実施したクラブもある。
その他	二酸化炭素濃度計や体温測定用のサーモカメラなどを備えたクラブもあり、国のコロナ対策補助金を活用して、クラブでの必要に応じた対策物品を購入している。



(一方向を向いて座る児童)



(増設した児童用手洗い)